

2022 年 12 月期第 2 四半期 決算説明会（2022/7/28 開催） 質疑応答要旨

※当日のご質問および回答に、一部表現の変更や加筆・修正を行っております。

Q：会計基準変更の影響について、今後の見通しを教えてください。

A：下期は上期に比べて影響が小さくなり、通期では売上高 5 億円、営業利益 3 億円増加の見通しである。

Q：中計目標に対して 2 年前倒しになりそうなペースで進捗しているが、2 年目以降に新規設備投資やコストが増加する要素があるか？

A：現時点で明確にいくらというのはないが、最大の課題は人的リソースの確保であるため、人材への投資は可能な限り増加させたいと考えている。

Q：一人当たり人件費の増加ペースを示す定量的な数値や定性的な情報はるか？

A：上期については好業績であったため業績連動賞与が大きくなり、一人当たり人件費は前年同期比からおおむね 5%ほど上昇した。

Q：人件費の上昇は下期以降も継続するのか？

A：業績推移によって業績連動賞与の変動はあるが、平常であれば、一人当たりの人件費は 3%程度の上昇を見込んでいる。

Q：行政手続き申請管理システム「minnect 申請管理」や都市 OS ソリューション「CIVILIOS」はどのセグメントの売上となるのか？

A：コミュニケーション IT セグメントで多くなる可能性がある。

Q：受注残高が二桁増加しているが、選別受注や案件開始期によってはお断りする案件も出てきていると思う。引き合いと御社の対応状況を教えてください。

A：引き合いは極めて旺盛であり、足元では一部選別受注やお断り案件もでてきているが、人員の最適配置やパートナーをフル活用し、対応している状況である。

Q：第2四半期の受注高が前年同期比でマイナスとなっているが、これは一過性で、下期に関しては増加に転じるととらえてよいのか。第3四半期以降の見通しを教えてください。

A：当社の受注高は四半期ごとの変動が大きい。今期は第1四半期が大幅に増加し第2四半期で減少したが、累計では増額を確保しており、一過性の事象と理解している。第3四半期以降のパイプラインも例年より多く積み上がっている。

Q：中途採用150人確定とあるが、離職者数を加味した上で計画に対してインラインなのか？

A：人材獲得競争が厳しい中、様々な手立てを講じて150人まで中途を確保した。しかし、まだまだ人員不足感は続いており、下期もさらなる獲得に向け採用を強化していきたい。

Q：今回の修正予想では、営業利益が2024年の中計目標に近い数字となっている。この目標をクリアできた場合、中計目標は見直すのか。もしくは、目標の見直しは行わず次年度の計画発表のみとするのか？

A：まずは今期計画に対してしっかりと取り組む。今後、中計の営業利益目標を超えることが見込まれた時点で、目標変更を考える。

以上